

NSG

GROUP



NSG グループ

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)

日本板硝子株式会社
2017年5月12日

森 重樹

代表執行役社長兼CEO

クレメンス・ミラー

代表執行役副社長兼COO

諸岡 賢一

代表執行役副社長兼CFO

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)



目次

決算概要

事業状況

2018年3月期通期業績見通し

中期経営計画(MTP)フェーズ2進捗報告

まとめ

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)



目次

決算概要

事業状況

2018年3月期通期業績見通し

中期経営計画(MTP)フェーズ2進捗報告

まとめ

要点：2016年4月－2017年3月

- 2017年3月期の無形資産償却前営業利益は、為替換算の影響を受けるも、大きく改善
 - 欧州市場の回復、堅調な米国市場
 - VA化が順調に進展
 - 原燃材料コストの減少と生産効率の改善
 - 不採算事業撤退・縮小等の効果発現
- キャッシュ・フローは大きく改善し、フリー・キャッシュ・フローが計画を上回る
- A種種類株式の発行により、安定した財務基盤へ前進

2017年3月期の無形資産償却前営業利益は、為替換算によるマイナス影響を受けながらも、大きく改善しました。最終利益も黒字に転換しております。

欧州市場の回復、堅調な米国市場、原燃材料価格の低下といった外部要因に支えられつつ、VA化の推進、生産効率の改善、不採算事業の撤退や縮小等の当社の取り組みによって、利益が改善しております。

キャッシュ・フローは、フリー・キャッシュ・フローが200億円を超え、「3桁のフリー・キャッシュ・フロー」を創出することができました。

また、A種種類株式の発行により、自己資本比率が16%弱へ改善しており、安定した財務基盤へ向け、前進しました。

連結損益計算書



(億円)	2016年3月期	2017年3月期	前年比
売上高	6,292	5,808	-8% ²
無形資産償却前営業利益	272	331	22% ³
償却費 ¹	(78)	(32)	
営業利益	194	299	54%
個別開示項目	(351)	29	
金融費用(純額)	(182)	(191)	
持分法による投資損益	(35)	11	
税引前利益/(損失)	(374)	148	
当期利益/(損失)	(475)	73	
親会社の所有者に帰属する当期利益/(損失)	(498)	56	
EBITDA	603	621	3%

- ¹ ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却
² 為替変動を除くと、2%増
³ 為替変動を除くと、39%増

無形資産償却前営業利益は、為替の影響を受けるとも改善

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

7

売上高は5,808億円となり、為替換算の影響を受けたことにより、前年比8%の減収となりました。為替変動の影響を除くと、前年比2%の増加となります。

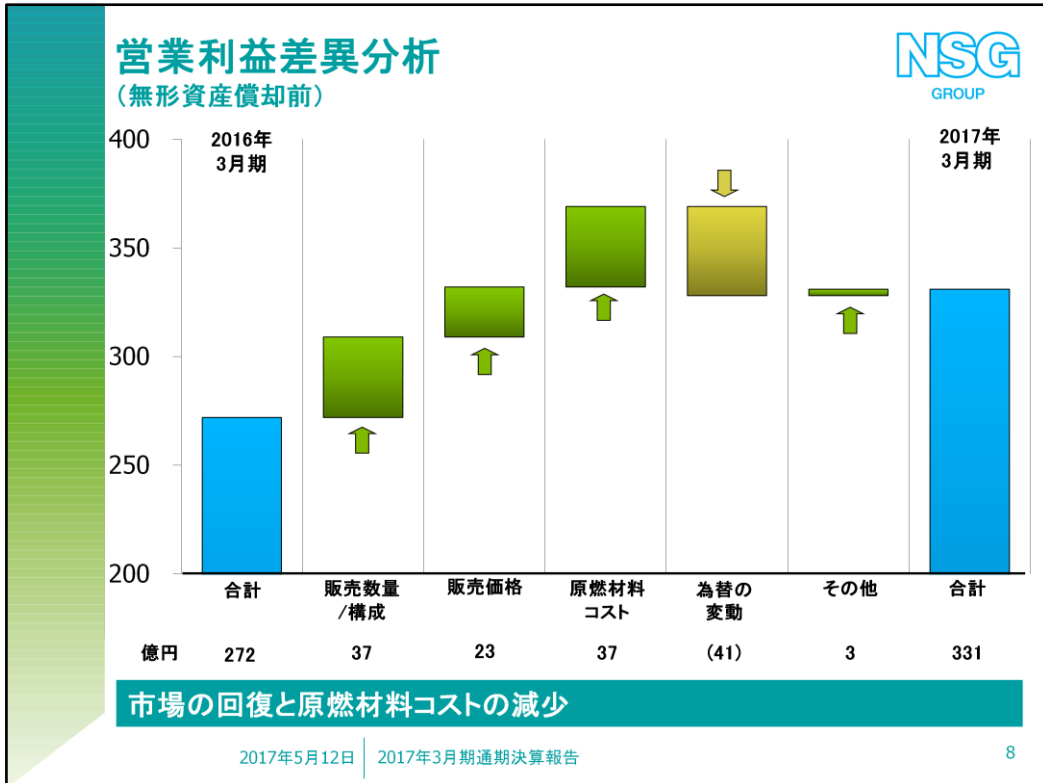
無形資産償却前営業利益は331億円で、前年から59億円の増加となりました。

個別開示項目は、リストラクチャリング費用を計上した一方で、日本とマレーシアの土地及び建物について、セール・アンド・リースバック取引の実施や関連会社に対する投資の売却によって益を計上したことにより、合計で29億円の利益になりました。

金融費用は、リファイナンスを前倒しで実施したことにより、増加しています。

持分法による投資損益ですが、前年より改善しています。

親会社の所有者に帰属する当期利益は56億円の黒字になりました。



「販売数量/構成」ですが、主に欧州と北米の自動車用ガラス事業における数量増加の影響を反映しています。

「販売価格」では、主に欧州の建築用ガラス事業で改善しています。

「原燃材料コスト」では、エネルギー・コストが下がりましたが、原材料費の上昇がその効果の一部を相殺しています。

「為替の変動」ですが、ここでは為替の変動が当社の利益に及ぼした影響を示しています。このグラフでは、前年の利益を当期の為替レートで換算しなおした時の影響を示しています。

個別開示項目



	2016年3月期	2017年3月期
(億円)		
有形固定資産等の売却による利益	2	82
関連会社に対する投資の売却による利益	-	9
事業撤退による利益	-	9
リースチャージング費用	(43)	(39)
有形固定資産等の減損損失	(127)	(24)
のれんの減損損失	(69)	-
関連会社に対する投資の評価損	(52)	-
係争案件の解決に係る費用	(47)	(2)
その他	(15)	(6)
	(351)	29

有形固定資産等の売却益を計上

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

9

2017年3月期では、29億円の益を計上しています。

「有形固定資産等の売却による利益」は、主として、日本とマレーシアで実施したセールス・アンド・リースバック取引によるものです。

「リースチャージング費用」ですが、主として建築用ガラス及び自動車用ガラス両事業の欧州において発生したものです。

「有形固定資産等の減損損失」は、主として建築用ガラス及び自動車用ガラスの両事業において発生したのですが、ここでは当社がイタリア・ベニスのフロートガラス製造ラインの再稼働を決定したことによって発生した戻入益も含まれます。

連結キャッシュ・フロー



(億円)	2016年3月期	2017年3月期
当期利益/(損失)	(475)	73
減価償却費	409	322
減損損失	249	25
有形固定資産等売却益・事業撤退による利益	(3)	(99)
法人所得税支払額	(38)	(50)
その他	105	(33)
営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）	247	238
運転資本の増減	(29)	66
営業活動によるキャッシュ・フロー	218	304
有形固定資産の取得	(282)	(241)
資産売却収入	7	144
その他	11	(4)
投資活動によるキャッシュ・フロー	(264)	(101)
フリー・キャッシュ・フロー	(46)	203

業績の改善がキャッシュ・フローの創出に寄与

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

10

ここでは、営業利益と運転資本の改善により、キャッシュ・フローが改善していることをご確認いただけます。

フリー・キャッシュ・フローは、資産売却によるキャッシュ増の効果もあり、前年から大きく改善しています。

主要財務指標(KPI)



	2016年3月末	2017年3月末
ネット借入(億円)	3,810	3,133
ネット借入/EBITDA	6.3x	5.0x
ネット借入/純資産比率	3.4	2.3

	2016年3月期	2017年3月期
EBITDA/インタレスト・カバレッジ	3.6x	3.4x
営業利益率*	4.3%	5.7%

* 無形資産償却前営業利益

主要指標は改善

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

11

11ページは、主要財務指標(KPI)の一覧です。

リファイナンスを前倒しで行った影響により、インタレスト・カバレッジ・レシオは若干悪化しましたが、それ以外の主要財務指標については改善しています。

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)



目次

決算概要

事業状況

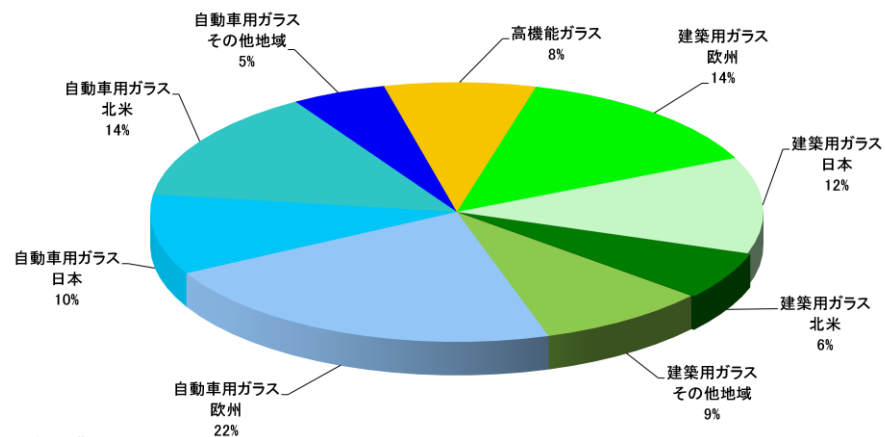
2018年3月期通期業績見通し

中期経営計画(MTP)フェーズ2進捗報告

まとめ

事業別売上高

5,808億円



2017年3月期
(2016年4月 - 2017年3月)

グローバルに事業展開

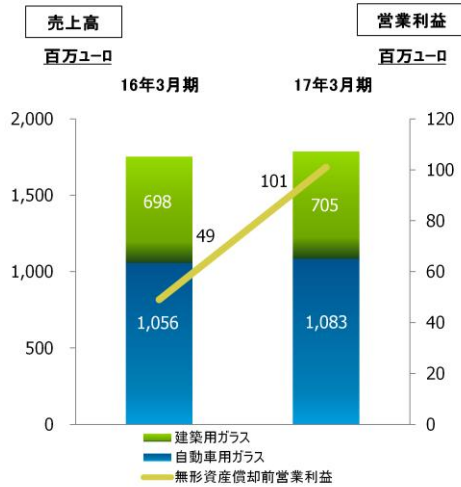
2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

13

このスライドは、当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

当社グループの売上高の構成比は、欧州が38%、日本が25%、北米が20%、その他が17%となっています。

欧州 2016年3月期通期との比較



建築用ガラス事業

- 好調な需要により、価格が堅調に推移
- 原燃材料コスト減の効果を享受

自動車用ガラス事業

- 販売数量の増加と生産性の改善により増益

市場の回復による影響を享受

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

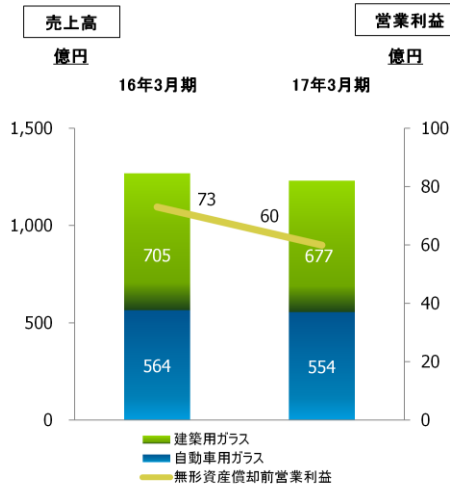
14

ここでは欧州における当社グループの建築用ガラス事業と自動車用ガラス事業の業績についてご覧いただけます。

建築用ガラス事業の利益は、好調な需要によって支えられた堅調な価格とエネルギー・コストの減少に加えて、「VA比率」の改善により、増益となりました。

自動車用ガラス事業は、販売数量の増加と生産性の改善により、増益となりました。

日本 2016年3月期通期との比較



建築用ガラス事業

- 通年の販売数量は減少したが、回復の兆しが見られる
- 原燃材料コストの減とコストダウンの効果享受

自動車用ガラス事業

- 前年度より、わずかに減収減益

軟調な市場の影響を受け、減収減益

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

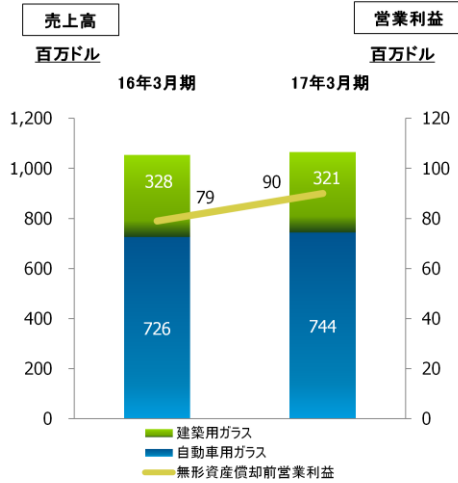
15

15ページは日本です。

建築用ガラス事業は、低調な市場の影響を受け、販売数量は前年度を下回りましたが、年間を通じて販売は徐々に回復しています。

自動車用ガラス事業ですが、自動車販売が熊本地震の影響を受けていた第1四半期以降に大きく改善しているものの、わずかに減収減益になりました。

北米 2016年3月期通期との比較



建築用ガラス事業

- 現地通貨ベースの売上と利益は、前年度とほぼ同様の水準
- 価格の改善による効果が、汎用品販売数量の減による影響を打ち消す

自動車用ガラス事業

- 現地通貨ベースでは、増収増益
- 当社の新車用ガラス(OE)の販売数量は増加

市場は好調を持続

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

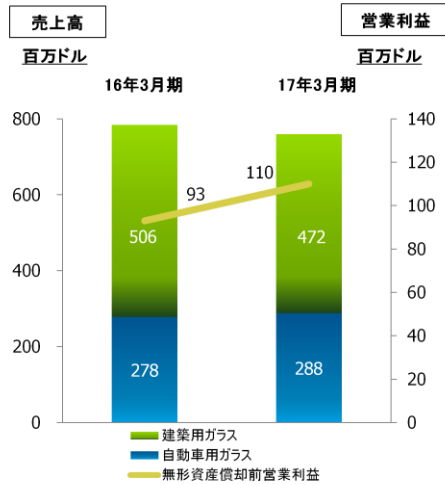
16

16ページは北米です。

建築用ガラス事業の米ドルベースの売上と利益は、前年度とほぼ同様の水準になりました。「VA比率」と価格の改善による効果を受取る一方、汎用品販売数量減の影響を受けています。

一方、自動車用ガラス事業は、米ドルベースでは増収増益となりました。当社の新車用ガラス(OE)の販売数量は増加しています。

その他地域 2016年3月期通期との比較



建築用ガラス事業

- アルゼンチンのフロート窯定修による影響を受けた前年度から、現地通貨ベースの利益は改善
- 東南アジアの需要は堅調

自動車用ガラス事業

- 南米では低調な市場の状況が継続

好調な地域と低調な地域が混在

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

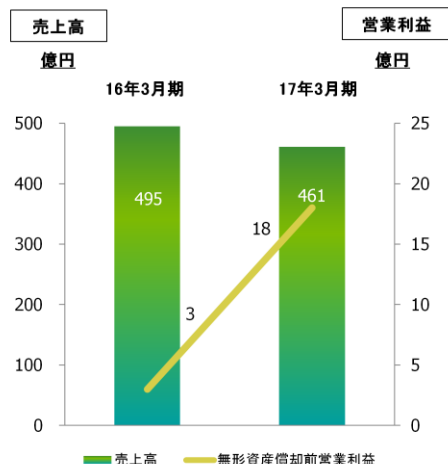
17

17ページは、その他の地域です。

建築用ガラス事業は、南米は厳しい経済情勢のなか、現地通貨ベースの利益が改善しています。東南アジアの需要は、引き続き堅調です。

南米の自動車用ガラス市場は低調に推移しており、当社グループの業績はその影響を受けています。

高機能ガラス事業 2016年3月期通期との比較



高機能ガラス事業

- ベトナムの薄板ガラス用フロート窯の休止により、ディスプレイの赤字は縮小
- プリンター用レンズの売上は減少
- グラスコードの販売数量は堅調に推移
- バッテリーセパレーターは、好調な需要と生産性改善の効果を受

ディスプレイは、薄板ガラス用フロート窯の休止により赤字縮小

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

18

18ページは高機能ガラス事業です。

高機能ガラス事業の利益は、前年から改善しています。

ベトナムの薄板ガラス用フロート窯の休止により、ディスプレイの赤字が縮小したものの、市場の軟化により、プリンター用レンズの売上が減少しました。

グラスコードの販売数量は、堅調に推移しました。

バッテリーセパレーターは、好調な需要と生産性の改善が業績に寄与しました。

持分法適用会社 2016年3月期通期との比較



(億円)	2016年3月期	2017年3月期
持分法による投資損益	(35)	11

- セブラセ(ブラジルのジョイント・ベンチャー)の業績は前年度から悪化
- 2016年3月期において減損損失を計上した結果、中国とロシアのジョイント・ベンチャーの業績は当期損益に影響しない

持分法による投資利益は改善

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

19

持分法による投資損益は、前年から改善しています。

ブラジルのジョイント・ベンチャーであるセブラセの業績は前年を下回っています。

中国とロシアのジョイント・ベンチャーに対する投資について、2016年3月期にて減損損失を計上した結果、これらのジョイント・ベンチャーの業績は、2017年3月期の損益に影響を及ぼしていません。

2017年3月期 総括



- 2017年3月期の無形資産償却前営業利益は、円高による為替換算の影響を受けるも、大きく改善
 - 欧州市場の回復、堅調な米国市場
 - VA化が順調に進展
 - 原燃材料コストの減少と生産効率の改善
 - 不採算事業撤退・縮小等の効果発現
- キャッシュ・フローが大きく改善し、フリー・キャッシュ・フローが年度計画を上回る
- A種種類株式発行により、安定した財務基盤へ前進

安定的財務基盤をベースにMTPフェーズ2を始動

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

20

20ページは2017年3月期の総括です。

2017年3月期の無形資産償却前営業利益は、為替換算によるマイナス影響を受けながらも、大きく改善しました。最終利益も黒字に転換しております。

キャッシュ・フローは、フリー・キャッシュ・フローが200億円を超え、「3桁のフリー・キャッシュ・フロー」を創出することができました。

A種種類株式の発行により、自己資本比率が16%弱へ改善しており、安定した財務基盤へ向け、前進しました。

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)



目次

決算概要

事業状況

2018年3月期通期業績見通し

中期経営計画(MTP)フェーズ2進捗報告

まとめ

2018年3月期連結業績予想



(億円)	2017年3月期 実績	2018年3月期 見通し
売上高	5,808	6,000
無形資産償却前営業利益	331	380
償却費*	(32)	(20)
営業利益	299	360
個別開示項目	29	(60)
金融費用(純額)	(191)	(150)
持分法による投資利益	11	20
税引前利益	148	170
当期利益	73	100
親会社の所有者に帰属する当期利益	56	80

* ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

5期連続で営業利益拡大、金融費用は大幅に削減

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

22

22ページは2018年3月期の連結業績予想になります。

2018年3月期の業績は、全般的に改善が続くものと考えており、売上高は6,000億円、無形資産償却前営業利益は380億円を見込んでおります。

個別開示項目は、更なる効率性の改善やコスト削減を図るための追加的なりストラクチャリング費用に加えて、オタワ工場における修繕作業後の再稼働までの費用の発生を想定しています。

金融費用は、A種種類株式発行後の借入金削減等により、2017年3月期対比で減少することを見込んでおります。

親会社の所有者に帰属する当期利益は、80億円の黒字を見込んでおります。

2018年3月期の見通し

- 建築用・自動車用ガラス
 - グローバルで緩やかに回復
 - VA製品の伸長：一部製品の需要が一時的に減少することがあっても、他の製品の成長で補完
- 高機能ガラス
 - ディ스플레이事業の新組成薄板ガラス(glanova®)を代表とするVA製品の伸びにより回復

全体として、市場環境はおおむね明るい基調

23ページは、2018年3月期の見通しです。

建築用ガラス及び自動車用ガラスの市場は、緩やかな回復が続く見通しです。

また、全体として、VA化の進展による改善を見込んでおります。
一部のVA製品の需要が一時的に減少することがあっても、他のVA製品の成長で補っていきます。

高機能ガラス事業の業績も、ディスプレイ事業の新組成薄板ガラス「glanova®」をはじめとした、VA製品の販売増加により、更に改善するものと考えております。

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)



目次

決算概要

事業状況

2018年3月期通期業績見通し

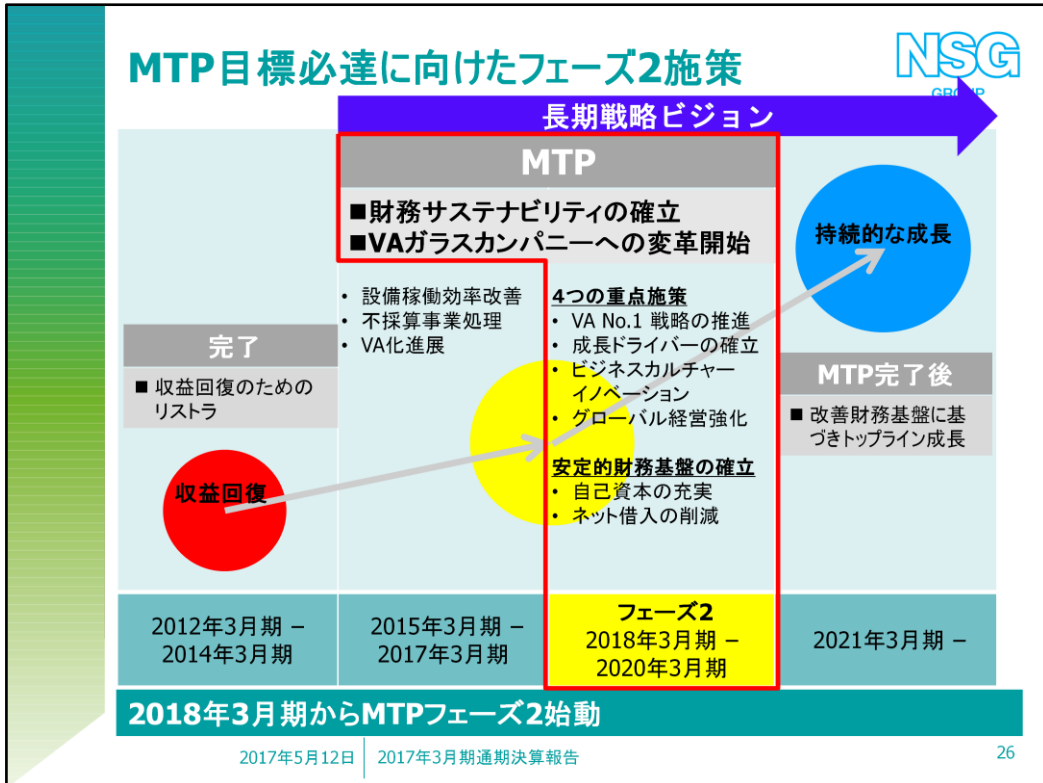
中期経営計画(MTP)フェーズ2進捗報告

まとめ

中期経営計画(MTP)フェーズ2 進捗報告

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

25

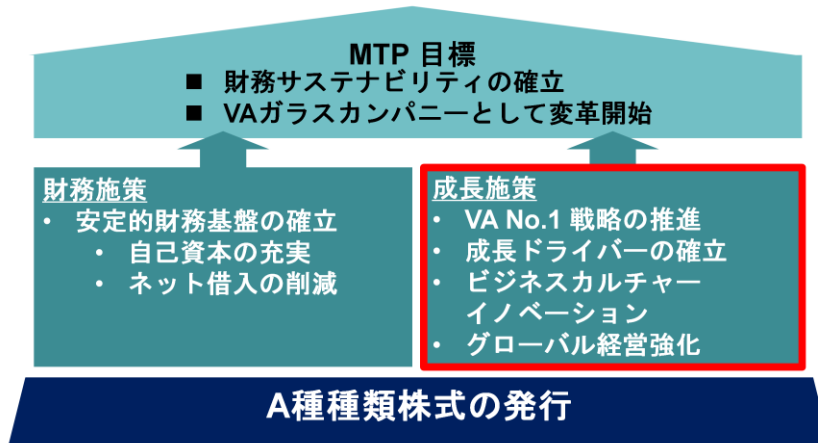


こちらは、中期経営計画(MTP)フェーズ2の概要です。

MTPフェーズ2は、3年間の計画で、今年度2018年3月期がその初年度となります。

フェーズ2では、成長戦略をけん引する4つの重点施策と財務基盤の確立について取り組み、MTPの二大目標である、「財務サステナビリティの確立」と、長期戦略ビジョンに掲げた「VAガラスカンパニーへの変容・変革開始」を目指します。

MTPフェーズ2施策①: 成長戦略にギアシフト



MTPフェーズ 2の重点施策により成長戦略にギアシフト

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

27

本年4月に始動いたしましたMTPフェーズ2のキーワードは「成長戦略へのギアシフト」です。

まずは、成長戦略のカギとなる、4つの重点施策についてご説明いたします。

第一に「当社の強みがある分野」と「成長が見込める分野」への注力を推進する「VA No.1戦略」。

次に、各事業分野の将来を支える「成長ドライバーの確立」です。

この二つは、事業計画を達成する両輪となるものですが、これらを、「ビジネスカルチャーイノベーション」と「グローバル経営強化」という他の2施策を通してサポートします。

MTPフェーズ2 成長施策始動 建築用ガラス事業



VA No.1戦略の推進



新日比谷プロジェクト
(Opitwhite™)



JAJASH 病院 (クウェート)
(Opitwhite™)

「強みのある分野」「成長分野」へ注力

- SPACIA®の採用拡大(例:高層ビル、商業用冷蔵庫等)
- Optiwhite™採用例増加
- ポーランドでダウンストリーム事業拡大
- イタリアでフロートライン再稼働

成長ドライバーの確立



BIPVガラス



次世代薄膜太陽光パネル基板
用ガラス

省エネ・創エネ、健康、デザイン性/視認性等で付加価値化実現

- 次世代薄膜太陽光発電用ガラス
- BIPV(建材一体型太陽光発電)用ガラス
- エレクトロクロミック調光ガラス
- デジタルサイネージ

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

28

ここから各事業ごとに「VA No.1戦略の推進」と「成長ドライバーの確立」について、今年度の取り組みを具体的にご説明いたします。

建築用ガラス事業の「VA No.1戦略の推進」においては、SPACIA®やOptiwhite™、弊社のオンラインコーティング技術を生かした各種VA製品などに引き続き注力してまいります。

Optiwhite™は、日本を含め多くの物件に採用例が増えてきており、SPACIA®は、建築用途以外にも、商業用冷蔵庫など、新規市場の開拓が進んでいます。

VA化の進んだ北米をロールモデルとして、欧州・日本で、地域ごとの特性に合わせたVA化を推進しています。

欧州では、イタリアで、休止中であったフロート窯を再稼働するとともにVA製品生産を可能とするアップグレードも行います。

また、よりお客様に近いVA化を推進するべく、ポーランドにおいてはダウンストリーム事業(ガラスの加工事業)に、力を入れます。

成長ドライバーとしては、建築ガラス部門では、省エネ・創エネ、健康増進、デザイン性・視認性等による。付加価値を提供できる製品の開発に力を入れてまいります。

具体的には、太陽光発電、熱や光をコントロールするガラスなどです。

MTPフェーズ2 成長施策始動 自動車用ガラス事業

NSG
GROUP

VA No.1戦略の推進



複雑形状ガラス



ヘッドアップディスプレイ (HUD)
対応



Opti-Aim
Your Calibration Tool

ADAS (先進運転支援
システム) 対応

「強みのある分野」「成長分野」へ注力

- 2018年3月期、日米欧で高精度プレス設備増設完了予定。HUD・ADAS搭載車増加へ対応
- 防曇・撥水コーティング
- UV Protect 400™ (ロングUVAカットガラス)
- 特殊車両(バス、鉄道等)向け用途拡大

成長ドライバーの確立



ディスプレイ体型ガラス
Low-Eガラス

自動運転、軽量化等で新たな価値提供

- ガラス軽量化
- 断熱・遮熱性能 (Low-E含む)
- 調光ガラス
- 遮音ガラス
- ディスプレーイ体型ガラス
- ガラスアンテナ

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

29

自動車用ガラス事業の「VA No.1戦略の推進」においては、急速に発展する先進運転支援システム (ADAS) 分野に対応する製品・サービスを展開してまいります。

HUDやセンサー、カメラなど搭載の際に求められる精度の高い高品質な自動車用ガラスを提供できるよう、2018年3月期において、日本、欧州、北米という主要市場で、高精度プレスラインの増設を完了します。

また、防曇・撥水やUV/IRカットガラスなど、高い機能性を備えた自動車用ガラスや、バスや電車などの特殊車両分野にも、注力してまいります。

成長ドライバーとしては、自動車ガラスに求められる新しいニーズ、自動運転対応や軽量化等の要請に答える製品の開発を優先してまいります。

建物同様に断熱や遮熱性に優れたlow-eガラスを使った自動車用ガラスや、欧州で進んでいる大型車両用のディスプレイ体型ガラスなども成長ドライバーとして開発に注力しています。

MTPフェーズ2 成長施策始動 高機能ガラス事業



VA No.1戦略の推進



蛍光遺伝子検査機



グラスコードポーランド工場



油中ベルト用グラスコード

「強みのある分野」「成長分野」へ注力

- ・ スマホ・タブレット向けにglanova®販売本格化
- ・ 油中ベルト用グラスコード
- ・ ポーランドにグラスコード工場増設
- ・ ISS(*)用バッテリーセパレーター
- ・ 蛍光遺伝子検査機、年内発売予定

(*) ISS:アイドリングストップシステム

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

成長ドライバーの確立



glanova®



IT関連機器



グラスコード新用途 (EPAS)



極薄ガラスペーパーSGP

各事業分野で新たな事業を創出

- ・ レンズ技術を生かして情報電子分野で製品・用途開発
- ・ 自動車用途含め、glanova®新規用途の開発
- ・ グラスコード新用途開発
- ・ 極薄ガラスペーパーSGP

30

高機能ガラス事業には、複数の事業が含まれており、ディスプレイ用薄板ガラス、プリンター等に使われるレンズや光ガイドを含む情報通信デバイス、電池用セパレーターやタイミングベルト用グラスコードなどのガラス繊維製品などがあります。この事業では、多くの製品において、当社は強みがあり、成長するものと考えております。

薄板ガラスglanova®は、お客様の認証作業が継続していますが、一部スマートホンやタブレット向けの販売が本格化してきております。

グラスコードは、油中ベルト用など新しい製品も立ち上がり、拡大するニーズに合わせて、新たにポーランドに生産拠点を設けました。

日本、英国、カナダ、中国に続く、5か国目の拠点となります。

バッテリーセパレーター分野はアイドリングストップスタートに対応した高密度セパレーターに力を入れており、情報通信領域でも、新たな用途を開発しています。

先日発表いたしました、モバイル蛍光遺伝子検査機もその一つであり、今年内の発売を目指して製品化に取り組んでいます。

成長ドライバーとしては、レンズ技術を生かし、情報通信分野での新製品・新用途開発に取り組んでいます。

glanova®は、ディスプレイ用途だけでなく、自動車用ガラスを含め新たな用途の開発に取り組めます。

グラスコードにおいても、タイミングベルト用途以外に可能性を検討しております。

MTPフェーズ2 成長施策始動

ビジネスカルチャーイノベーション

- ものづくり
 - 設備効率指標に加えて労働生産性指標も追加。特に欧州・北米での効率改善に注力
- マーケティング強化
 - 建築ガラス事業、自動車ガラス事業でグローバルマーケティング組織を設置、情報やベストプラクティス共有でレベルアップを図る

グローバルマネジメント強化

- 経営層の後継者候補育成や人材育成システムをグローバルで運営
- VA化推進に向けて「NSGグループ・コンピテンシー・モデル」を改定
- 人材多様性とインクルージョン推進
- VA化分野ヘリソースを再配分をするとともに、引き続き強力にコスト削減を推進

4施策のうち、残り2つは「ビジネスカルチャーイノベーション」と「グローバルマネジメント強化」です。

「ビジネスカルチャーイノベーション」においては、ものづくり、マーケティング機能の強化を通して、「VA No.1戦略の推進」を加速してまいります。

具体的には、KPIや組織を見直すことを通して、メーカーの基本となるものづくりの強化と、お客様第一のマーケティング強化を行います。

一方、グループ全体として「グローバルマネジメント強化」に取り組めます。

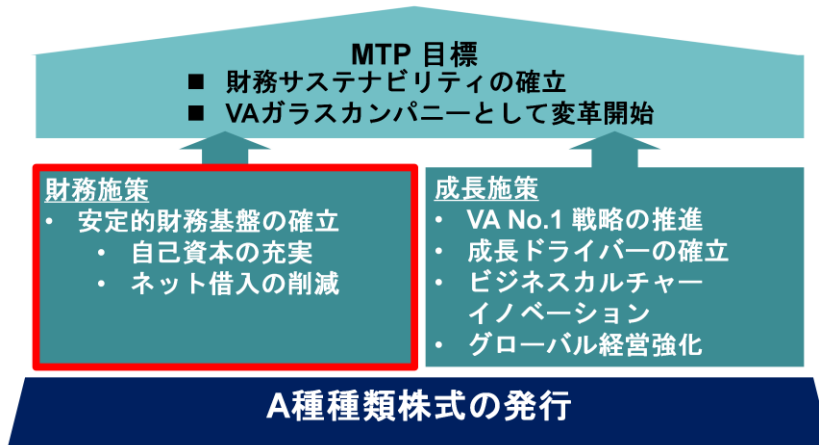
従来より進めてきました、経営層の後継者候補育成や人材育成システムのグローバルでの運営を今後も継続するとともに、VA化推進に向けて、グループ従業員に期待するコンピテンシーを規定したモデルを見直しました。

また、新たに、人材多様性とインクルージョンを推進することで、さらに組織の活性化を図ります。

また、事業業績及び他の施策を推進すべく、リソース配分を見直し、VA関連分野への再配分を進めます。

そして、MTP目標必達を目指し、引き続き強力にコスト削減に取り組めます。

MTPフェーズ2施策②:財務の安定化



2017年3月期にA種種類株式を発行し、財務の早期安定化に向け前進

次に、MTP目標である「財務サステナビリティの確立」についての説明です。

こちらは、本年2月に、A種種類株式の発行を公表した際に詳しくご説明しましたが、A種種類株式の発行による資金調達を通して、自己資本充実を図り、ネット借入の削減を行うことで、財務の早期安定化に取り組むものです。

MTPフェーズ2施策②:財務の安定化



財務基盤早期安定化

- A種種類株式発行により400億円資金調達、自己資本増強
- 2017年3月末で、前倒し分含めて、総額約1,000億円のリファイナンス完了
- 2018年3月期の金融費用は150億円まで削減

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

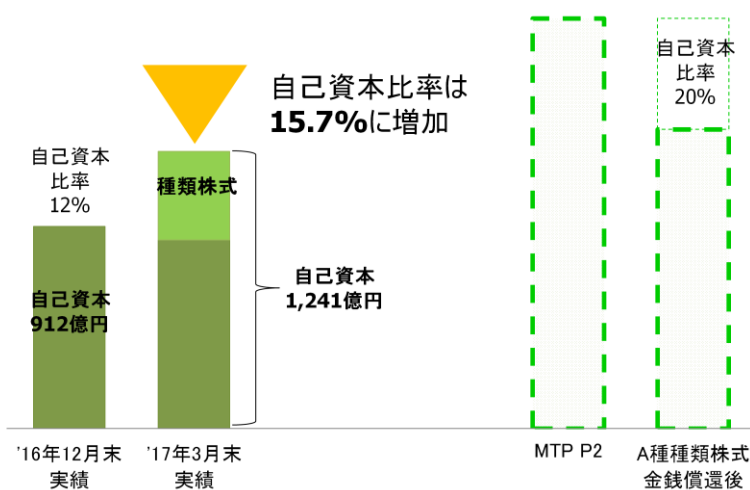
33

2月にご説明しましたとおり、A種種類株式については、3月24日の臨時株主総会で関連議題をご承認いただき、3月31日に計画通り発行いたしました。

これにより、自己資本を増強し、改善した財務基盤をベースに、総額1000億円レベルのリファイナンスを3月末に完了いたしました。

このリファイナンスの金額には前倒し分もあり、その結果今年度、2018年3月期においては、金融費用を大幅に削減できる見込みです。

財務の安定化－自己資本の充実



A種種類株式発行により400億円資金調達、自己資本増強

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

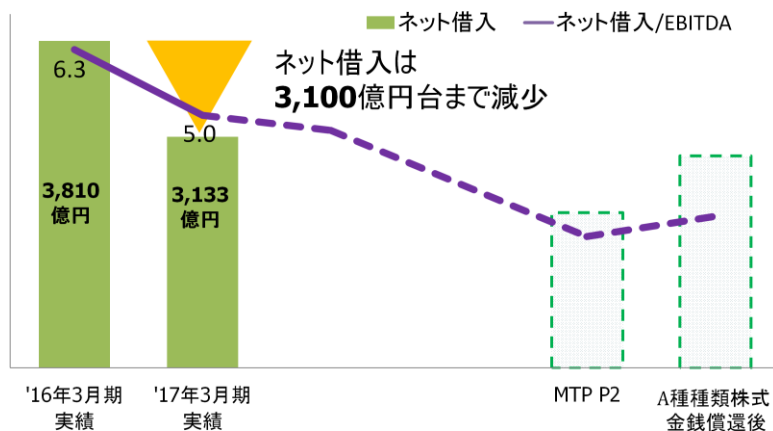
34

まず自己資本の充実についてですが、A種種類株式発行を受けて、自己資本比率は、第3四半期末の12%から、2017年3月末には16%弱へと改善いたしました。

第3四半期末に対して、第4四半期末は多少円高に振れていますので、自己資本総額は、1300億円を多少下回りましたが、計画通り大幅な改善となっております。

財務の安定化ー ネット借入減少

- 種類株式による資金調達により、ネット借入は3,100億円台まで減少



ネット借入を順調に削減。ネット借入/EBITDA比率も改善

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

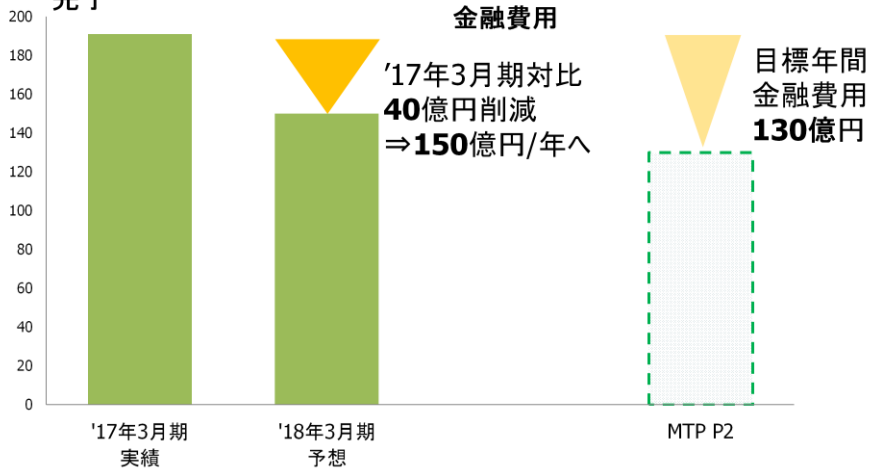
35

次にネット借入ですが、2月にご説明した際は、2017年3月期の想定を3200億円台とお話しましたが、実際には、3100億円台まで減少いたしました。

これにより、MTPの財務目標達成のためのKPIである、ネット借入/EBITDA比率も目標の3倍に向けて順調に改善しています。

財務の安定化－金融費用削減

- 前倒し分を含み、総額約1,000億円のリファイナンスを2017年3月に完了



2020年3月期目標の大部分を、初年度で実現

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

36

前述の通り、財務基盤の早期安定に向けて、2017年3月期には大きな前進がありました。

その結果、1000億円のリファイナンスを前年度末で行い、2018年3月期の金融費用削減にめどを付けました。

リファイナンスの1000億円には、一部前倒しのリファイナンスが含まれたため、2017年3月期の金融費用は、想定より多少増加しましたが、MTPフェーズ2の初年度である、2018年3月期に、年間150億円レベルまで落とす計画です。

MTPフェーズ2の最終年度に目指す、年間金融費用130億円に向けて、初年度から大きな削減を実現してまいります。

MTPフェーズ2推進によりキャッシュ創出



営業利益
前年比50億円
増益

金融費用
前年比40億円
削減

フリー・キャッシュ・フロー
創出

設備投資
減価償却費以内
維持

運転資本
コントロール

保有資産
見直し

引き続き3桁億円のフリー・キャッシュ・フロー創出を目指す

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

37

4つの重点施策により、営業利益を拡大し、さらに、財務施策を通して、金融費用削減すること、それらに加えて、従来より継続的に行っております、償却費の範囲内で設備投資を行うことや、運転資本の管理を行い、また一方で、保有資産も引き続き見直すことで、今年度も、3桁億円のフリーキャッシュフローの創出を目指します。

2017年3月期通期決算報告

(2016年4月1日～2017年3月31日)



目次

決算概要

事業状況

2018年3月期通期業績見通し

中期経営計画(MTP)フェーズ2進捗報告

まとめ

まとめ

2017年3月期

- 営業利益が継続的に改善
- A種類株式発行を通して財務基盤を早期安定化

2018年3月期

- MTPフェーズ2始動とともに、成長戦略へギアシフト
 - 早期財務基盤改善施策をベースに順調な始動
 - 重点施策の実行加速、トップライン成長へ
 - 営業利益・最終利益を継続的に改善、キャッシュ創出
 - MTP目標達成に向けてまい進

2017年3月期は、MTP開始以降継続している、営業利益改善を引き続き達成し、また、最終利益においても黒字に戻りました。

また、A種類株式の発行を通して、財務基盤の早期安定化を図りました。

今期、2018年3月期は、MTPフェーズ2始動の年でもあり、明確に成長戦略へと、ギアを切り替えてまいりたいと思います。

ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場（欧州、日本、北米、アジア等）の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。

日本板硝子株式会社

補足資料

事業部門別・地域別売上高

2016年3月期との比較



(億円)	2016年3月期	2017年3月期	増減
建築用ガラス	2,626	2,377	(249)
欧州	922	841	(81)
日本	705	677	(28)
北米	393	348	(45)
その他の地域	606	511	(95)
自動車用ガラス	3,163	2,966	(197)
欧州	1,395	1,293	(102)
日本	564	555	(9)
北米	870	806	(64)
その他の地域	334	312	(22)
高機能ガラス	495	461	(34)
欧州	80	70	(10)
日本	245	241	(4)
北米	12	10	(2)
その他の地域	158	140	(18)
その他	8	4	(4)
欧州	1	0	(1)
日本	7	4	(3)
北米	0	0	0
その他の地域	0	0	0
合計	6,292	5,808	(484)

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

42

償却前営業利益*

2016年3月期との比較



(億円)	2016年3月期	2017年3月期	増減
事業別			
建築用ガラス	246	270	24
自動車用ガラス	98	127	29
高機能ガラス	3	18	15
その他	(75)	(84)	(9)
合計	272	331	59
地域別			
欧州	52	94	42
日本	13	24	11
北米	92	92	0
その他の地域	115	121	6
合計	272	331	59

*: 無形資産償却前営業利益

連結貸借対照表

	2016年3月末	2017年3月末	増減
(億円)			
資産	8,121	7,902	(219)
非流動資産	5,714	5,278	(436)
のれん・無形資産	1,764	1,623	(141)
有形固定資産	2,589	2,452	(137)
その他	1,361	1,203	(158)
流動資産	2,407	2,624	217
現金及び現金同等物	551	849	298
その他	1,856	1,775	(81)
負債	7,001	6,565	(436)
流動負債	2,859	2,232	(627)
金融負債	1,435	798	(637)
その他	1,424	1,434	10
非流動負債	4,142	4,333	191
金融負債	2,934	3,196	262
その他	1,208	1,137	(71)
資本	1,120	1,337	217
親会社の所有に帰属する持分	1,031	1,241	210
非支配持分	89	96	7
負債及び資本	8,121	7,902	(219)

減価償却費・資本の支出・研究開発費

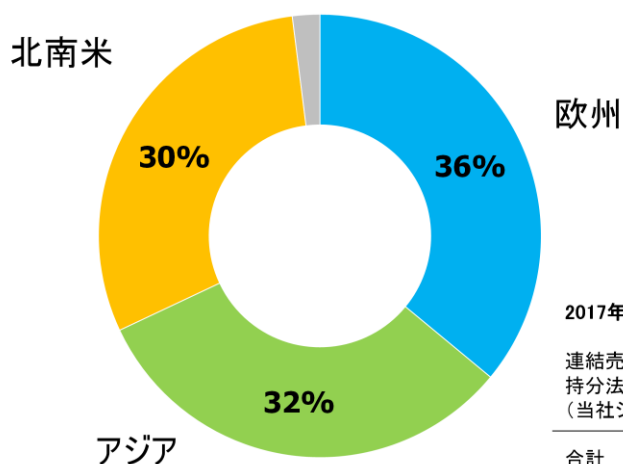


(億円)	2012年 3月期	2013年 3月期	2014年 3月期	2015年 3月期	2016年 3月期	2017年 3月期
減価償却費	387	366	404	417	409	322
資本の支出	347	260	316	366	282	280
研究開発費	80	73	79	82	98	85

為替レート

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期 通期前提
期中平均為替レート:			
円/英ポンド	181	142	140
円/米ドル	120	108	110
円/ユーロ	132	119	120
期末為替レート:			
円/英ポンド	161	139	
円/米ドル	113	111	
円/ユーロ	127	119	

(参考)2017年3月期 グループ売上高 地域別ビジネスウェイト



2017年3月期

連結売上高: 5,808億円
持分法適用会社売上高
(当社シェア分) 380億円

合計 6,188億円

当社グループは世界各地でビジネスを展開

2017年5月12日 | 2017年3月期通期決算報告

47

NSG

GROUP